

# 登別市史編さんだより

## 足袋を履いて走る～運動足袋～



運動足袋を履く児童 (昭和30年代登別温泉小学校運動会)

市内にもランニング愛好者は多く、様々な形態のランニングシューズを見ることができます。

その中でも異彩を放つのが、昨年テレビドラマで話題となった足袋型のランニングシューズ。

昭和40(1965)年代後半までの小学校の運動会では、実際に足袋が履かれていました。

運動足袋(「マラソン足袋」「ランニング足袋」などとも)と呼ばれるその足袋は破れやすいため、「履くのは運動会だけで普段はゴムの短靴」という子が多かったそうです。また、別の方からは「運動足袋は裕福な家の子が履くもので、その他の家はゴムの短靴だった」とも聞いており、使用するかしないかは、耐久性だけではなく家庭の事情による違いもあったようです。

昭和40年代半ばまで広く普及していた運動足袋は、その後、運動靴へと切り替わっていきます。

※短靴(たんぐつ)：足のくるぶしあたりまでの浅い靴

## 昔の登別～銀座通りのにぎわい～



銀座通りの様子 (大山吉次氏撮影)

幌別の昔話を伺うと、必ず出てくるのが“銀座通り”のこと。

- ・色々なお店があった
- ・大変多くの人でにぎわっていた

などなど

昭和44(1969)年発行の住宅明細図を見ると、通りの両側に幌別フードセンターや幌別<sup>れんぱい</sup>廉売市場など食料品店、飲食店、呉服店、金物店など20軒以上のお店が立ち並び、まさに幌別における買い物の中心地でした。

そのため、自動車の往来も激しく、買い物客が危険な思いをすることが多かったことから、

安全に買い物ができるように昭和45年12月から銀座通りを午後1時から午後6時までの時間限定で歩行者天国とすることとし、翌年7月10日からは、通りにビーチパラソルや花壇、簡単な遊具を置くようになります。

写真のように多くの人出でにぎわった銀座通りでしたが、通り沿いの店舗の移転などから客足が徐々に遠のき、平成6年に登別中央ショッピングセンター・アーニスを建設する際には、その敷地となったことから、銀座通りは幕を閉じます。

## 若草町の移り変わり～旧若草幼稚園を目印に～

昭和20年代の10戸程度が住む小さな町から現在の大住宅地へと変貌した若草町。

この写真は、若草町在住の市民の方が、その移り変わりを昭和52年から平成14年まで20年以上にわたって通称ボウズ山（上鷲別町）から撮影してきた写真です。



昭和52（1977）年8月1日撮影

### ●昭和52年8月

写真中央にポツンと建つ一軒の建物。この年に開園した若草幼稚園（赤丸で囲んでいるところ）です。

当時の若草町は、幼稚園手前を走る道道上登別室蘭線が徐々に整備されていき、室蘭市のベッドタウンとして少しずつ住宅が増えていっていますが、まだまだ空き地が広がっています。

遠くの煙突は、線路向こうにあった富士工業の工場の煙突です。

### ●昭和57年6月

それから5年後。

若草幼稚園を囲むように多くの家が立ち並んでいます。

良く目を凝らすと、幼稚園の左上に前年12月に開通した若草跨線人道橋こせんじんどうきょうが見えます。

まだまだ新生町方面（写真左手）には空き地が目立っています。



昭和57（1982）年6月1日撮影

### ●平成14年4月

更に20年が経ちました。

20年前にあった空き地は、ほぼ見えなくなり、線路向こうの富士工業の工場もパロマ北海道工場に変わっています。

見えづらいですが、若草中央公園やのびのび公園も完成しています。

目印にした若草幼稚園は、撮影から一年後の平成15年3月に閉園します。



平成14（2002）年4月1日撮影

#### ◎資料に関する情報提供のお願い

市史編さんグループでは、昔の登別を知る手掛かりとなる資料についての情報を集めています。

お祭りやまちの様子を写した写真や映像、当時の日記など、お心あたりのある方はご連絡ください。

（連絡先）登別市総務部市史編さんグループ 千葉・更科・玉田・小坂

電話：0143-50-6039 FAX：0143-85-1108